

豊かなミニマライフを デザインする



第2回

仲間づくりが発展してくと、居場所が欲しい。仲間と一緒に趣味活動やおしゃべりのできる場が欲しい。週に何回かふらっと通えるところがあればよい。でも通うのにお金がかかる。この場合は遠慮したい。大体そのようなニーズが出てくるものである。

町内会組織ではないNPOとして取り組みやすい居場所へのは、まずサロンを開設することであろう。多くの自治体も、シニアのサロン活動へ何らかの支援をしているから、そういう補助金を活用して立ち上げるのがよい。しかし、多くの自治体の補助金が3年とか5年とかの有期限の補助であり、その間に経済的自立を目指すことが求められる。実際、補助金の打ち切りとともにサロン解散というケースも稀ではない。補助

金をしていただいた当初は多くの人に来てほしいのでサロンの参加費はとらないで運営していたが、補助金が無くなって家賃が払えなくなるので有料にしたところ参加者が途絶えた、という話はよく聞く話である。

サロンの継続のポイントには家賃(会場費)をどう賄うかというところに尽きる。だから、継続するにはしっかりとコンセプトを持って運営すべきである。当初から家賃を支払うだけの参加費をいたたくとか、他に収入となる活動(作品づくり、バザー、食卓会、廃品回収、イベント収入など)を地道に続けることが大切である。なお、収入活動は概ねほんの足しになるぐらいのものでしかないが、そこで生まれる創意工夫や新たな人間関係がサロンをさらに活き活きとさせるので、是非とも取り組むべきものである。

また、サロン運営には運営する人のリーダーシップが問われるし、運営する人へのバックアップの仕組みも必要である。週々5回もボランティアでサロンを開設するのは使命感や意気込みだけでは続かない。安定して運営するためには、

居場所づくりで 元気になる 続けるカギは創意工夫に

運営に協力してくれる人を引き付けるリーダーシップが求められる。それを育成するために、社会福祉協議会などで地域活動のリーダーを育てる研修があるが、このようなところにNPOとして関わっていくことが求められていると思う。サロンを開設したい人の相談に乗る、開設した後も愚痴を聞いてあげるだけでもいいし、イベントの発案や協力、チラシづくりやニュー

ネットは、札幌市と連携してサロンの立ち上げの協力もしている。

また、サロン同士の交流やお互いの情報交換を行う。札幌市社会福祉協議会と共に「地域の我が家」という取り組みを一昨年まで3年間行ってきた。札幌市で活動するサロンが大きなホールに一堂に会し、サロンで作った作品を売ったり、サロンで行っている歌声喫茶やニュースポーツ(カーリングなど)を披露したりして、サロン活動を市民にアピールする場を設けたのである。3年間の平均で、参加してくれたサロンは20団体で、来場者は500名くらいである。この日のために、歌の練習をしたり作品を作ったりとサロンにとって「ハレ」の場となったようである。サロンを運営する方が持っている使命感にスポットをあてることで、元気をもたせられる。

さて、シーズネットは、幸運にもあまりお金をかけずにそれぞれ特徴のある「居場所」を3カ所持っている。1つは、豊平区で開いている「サロンこのはな」である。平日は毎日10時から16時まで開いている。毎日開いているから、様々な催しを行っている(図1)。参加者は季節や催し物の内容などにより変動があるが、延べ人数で月100〜180名。実数で30

地域交流サロン このはな H27年8月の予定表				
月	火	水	木	金
3 新しいCDで楽しんでみましょう	4 おしゃべりカフェ 13:30~ 横平先生の初めてのヨガ	5 大人のゆめえ おしゃべりカフェ	6 パッチワーク・こもの 初めての方もどうぞ	7 パソコン学習 おしゃべりカフェ
10 10:00~12:00 スタッフ会議 13:00~ おしゃべりカフェ	11 絵てがみ おしゃべりカフェ	12 10:30~ カーリング おしゃべりカフェ	13 お盆休み	14 パソコン学習 おしゃべりカフェ
17 あみもの・こもの 初めての方もどうぞ	18 13:30~ 介護保険・介護予防 お話しを じっくり聞きましょう	19 10:30~ ふまねっと運動 おしゃべりカフェ	20 13:30~ カードゲーム UR都市機構	21 パソコン学習 おしゃべりカフェ
24 月に一度の カレーでランチ 別途200円	25 パッチワーク・こもの 初めての方もどうぞ 13:30~ 斉藤先生の折り紙	26 10:00~ グラウンド・ゴルフ おしゃべりカフェ	27 絵てがみ おしゃべりカフェ	28 このはな喫茶 コーヒーで楽しいひととき
31 あみもの・こもの 初めての方もどうぞ	8月13・14日は「サロンこのはな」はお休みです。 暑い毎日クーラーの効いたサロンでおしゃべりしませんか?			

「サロンこのはな」では毎日何かしらの催しが開催されている

理事・奥田龍人

「役割づくり」の事務所の機能を担っている方が8名くらい、他にも、毎月発行する機関紙の編集・印刷・郵送のために携わる方が4〜6名くらい通っている。皆ボランティアで交通費しか支給していないが、皆さん、「私の役割」と心得て足しげく通っていただいている。これも「居場所づくり」の実践であろう。(認定NPO法人シーズネット)

今年200
内側
患者が
療所や病院
て、診察を
り、さらに
果や治療内
など各医療
し、医療機
人が自分の
確実にでき
民営化が進
関の病院、
など相互の
ていたのも
それを解
は、インタ
本人が自分
できるシス
た。診察の
本人の過去の
いのか、毎
どが義務づ
モデル実
ツピング県
システムの

豊かなミニマライフを デザインする



第3回

サロンが発展すると、仲間内だけで役割づくりが芽生えてくる。始めは単なるお茶飲み会だったのだが、それだけでは物足りないのと皆で家庭菜園にチャレンジして採れた野菜で食事会を行った。それが発展して栽培した野菜を中心としたバザーを開いて地域の人と交流した、というようなことがある。現在私どもが取り組んでいる多種多様な「役割づくり」の活動を次に紹介しよう。まず、一番初めに知り組んだのは高齢者向け住宅の情報提供や入居希望者の相談に乗る事業である。札幌にどんどん高齢者向け住宅が増えてきた2004年からは「あんしん住まいサッ

ポロ」という組織となつて、札幌市住宅管理公社の協力をよりその一角に独立した相談コーナーを設けており、16名の相談員が平日の10時から16時まで2名体制で常駐している。

相談員は全員シニアのボランティアであるが、毎月の研修会や随時の見学会などを行い、質を高める努力をしている。昨年度の相談件数は13333件で、一昨年度までは右肩上がりだったが、300件近く減少した。これは、サービス付き高齢者向け住宅がどんどん増えて供給過剰気味(札幌市は全国一の件数)となる中で、斡旋業者の相談窓口が急増したためであつた。私どもは、斡旋をせず市民

目線に立った中立公正な相談を心がけている。次に、2007年より札幌市の委託を受けて「孤立死ゼロ推進センター」の運営を始めた。孤立死が話題となり始めた頃、孤立死を予防する取り組みをしよう

また、北海道社会福祉協議会の委託を受けて、中国・樺太帰国者支援にも取り組んでいる。残留孤児の一世の世代は後期高齢者となり、介護や生活支援の問題が出てきているが、日本語でのコミュニケーションの課題があり適切な支援を受けられることが難しい。そこで、帰国者のための介護予防教室を月1回開いたり、年に数回作品展や発表会などを盛り込んだ集いなどを行っている。

また、北海道社会福祉協議会の委託を受けて、中国・樺太帰国者支援にも取り組んでいる。残留孤児の一世の世代は後期高齢者となり、介護や生活支援の問題が出てきているが、日本語でのコミュニケーションの課題があり適切な支援を受けられることが難しい。そこで、帰国者のための介護予防教室を月1回開いたり、年に数回作品展や発表会などを盛り込んだ集いなどを行っている。

ニーズが見えたら チャレンジ! 社会参加は元気なうちから

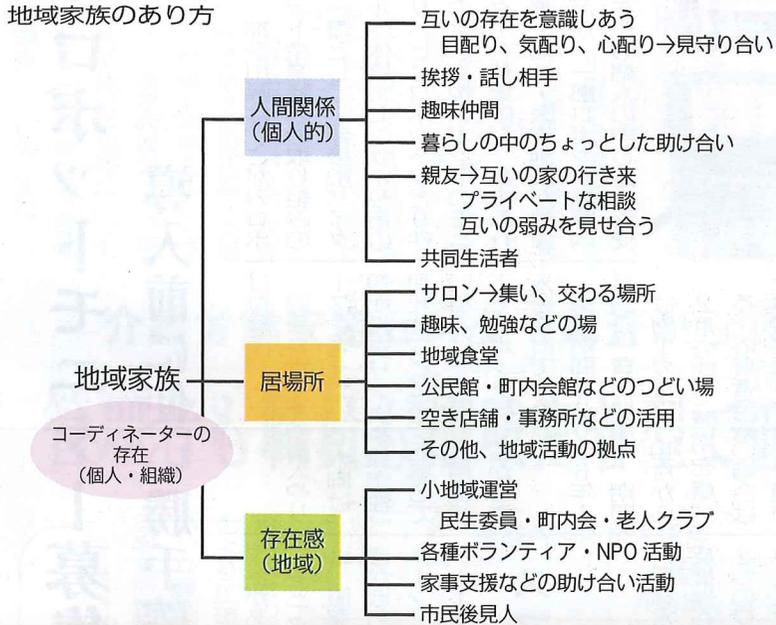
と札幌市に働きかけ、「さっぽろ孤立死ゼロ推進会議」を設置。その事務局をセンターとして運営したものである。モデル地区をつくり町内会や社会福祉協議会、地区組織と配達事業者などのネットワークを形成し、マンションや自治会などでの出前講座、啓発セミナーの開催などを行った(札幌市のHPに事

と札幌市に働きかけ、「さっぽろ孤立死ゼロ推進会議」を設置。その事務局をセンターとして運営したものである。モデル地区をつくり町内会や社会福祉協議会、地区組織と配達事業者などのネットワークを形成し、マンションや自治会などでの出前講座、啓発セミナーの開催などを行った(札幌市のHPに事

「手心え」が 継続の源

さて、このような活動をする地域はいろいろと見えてくる。そこで関わっている誰かが「こうした取り組みが必要ではないか」と発案する。「ではやってみよう」とあまり後先考えずにチャレンジするのが、岩見太市前代表が培ったシーズネットの文化となっている。途中で行ける事業も、もちろんある。シーズネットは、「介護報酬」のような定量的な収入を期待できる活動は全く行っていないので運営は厳

この連載で述べてきた「仲間づくり・居場所づくり・役割づくり」の取り組みであるが、岩見前代表が「地域家族の時代」(2012・筒井書房)の中でまとめたイメージを参照された(図)。(終わり) (認定NPO法人シーズネット理事長・奥田龍人)



と札幌市に働きかけ、「さっぽろ孤立死ゼロ推進会議」を設置。その事務局をセンターとして運営したものである。モデル地区をつくり町内会や社会福祉協議会、地区組織と配達事業者などのネットワークを形成し、マンションや自治会などでの出前講座、啓発セミナーの開催などを行った(札幌市のHPに事

中国の街で、老夫婦が、苦労をきで、苦勞をうので、退職で以上にお互い関係になりまも、二人揃って、寄り添って、ゆっくりで、普通に見るが普通に見る。このため、に「く」なると、大きくて、生が失うケースあります。経もに、生活様代わりし、近薄くなって来題はなおさらあります。あるおばあ